

インターネットの機能が充実！

これが ウィンドウズ 98 セカンドエディションだ

98年7月25日、インターネット機能を標準装備したホームユーザー向けOS「ウィンドウズ98日本語版」が発売されてから早くも1年が経とうとしている。その間に、マイクロソフトではウィンドウズ98と深くかかわるインターネットエクスプローラ5を発表し、各種の不具合を修正するいくつかのモジュールを配布した。それらをまとめてマイナーバージョンアップしたものが「ウィンドウズ98セカンドエディション」だ。この製品は、ウィンドウズ2000が登場するまでの単なるつなぎのOSではなく、インターネットに関する新機能を追加し、ホームユーザー向けにネットワーク機能を強化した最新OSだ。

ウィンドウズ98 セカンドエディションの位置付け

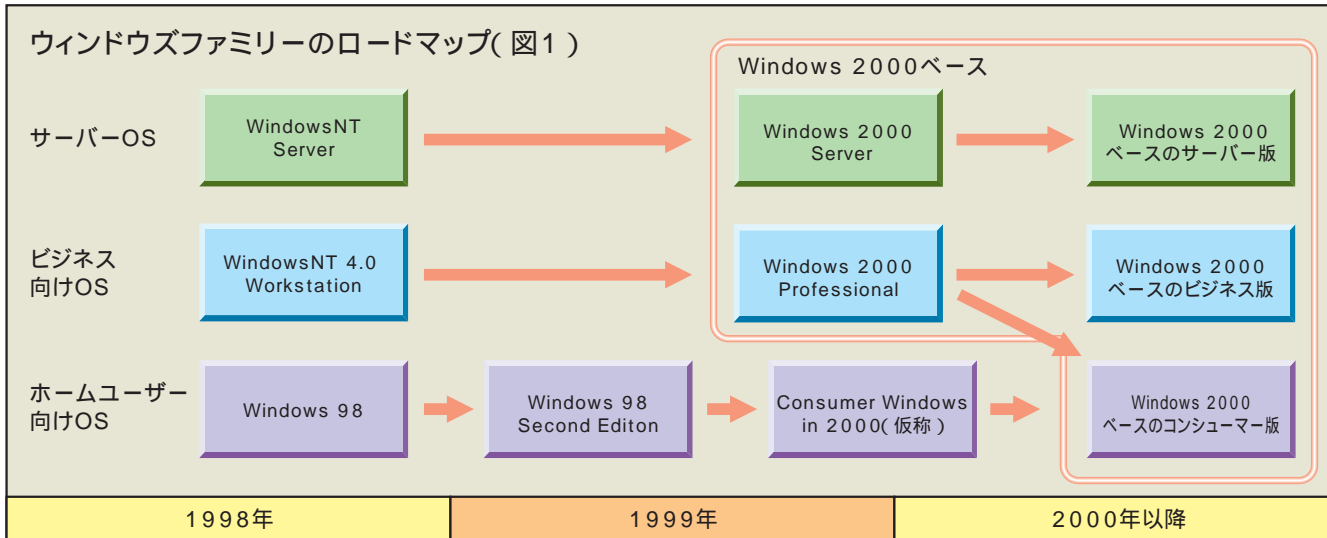
ウィンドウズ98セカンドエディションは、昨年夏に発売されたホームユーザー向けOS「ウィンドウズ98日本語版」のマイナーアップデートバージョンだ。この製品にはいくつかの新機能が搭載されるほか、ウィンドウズ98日本語版が発売されてからこの1年の間にバージョンアップが行われた、インターネットエクスプローラ5やDirectX 6.1、ウィンドウズメディアプレイヤーといったソフトウェアの最新版と各種の不具合が修正されたものが収録される。マイク

ロソフト社では、次期メジャーバージョンアップとなるNTカーネルを採用したホームユーザー向けのOSを出荷するまでの間、新しい技術や高品質な環境を提供するため、今後もウィンドウズ98をアップデートしていく予定で、今回のウィンドウズ98セカンドエディションはその第一弾となる製品だ。さらに2000年には第二弾の製品として「コンシューマーウィンドウズin 2000」(仮称)を出荷する計画になっている。コンシューマーウィンドウズ in 2000はウィンドウズ98をベースとした最後のOSとなる予定で、それ以降のホームユーザー向けのOSはNTカーネルをベースとしたものになる(図1)。



(画面1) ウィンドウズ98セカンドエディションをインストールした直後のデスクトップ画面。チャンネルバーが削除された以外、現行のウィンドウズ98と見た目は変わらない。

ウィンドウズファミリーのロードマップ(図1)



ホームネットワークを重視したセカンドエディションの新機能

セカンドエディションで追加や変更のされた点を大きく分けると、インターネットに関する新機能、マルチメディアサポートの強化、最新ハードウェア技術への対応、各種不具合の修正の4点となる。

これらの変更点の中で特に注目したいのが、インターネットに関する新機能の「インターネット接続共有」だ。これは、1台のPCがインターネットに接続していれば、LANで接続されている他のPCも同時にインターネットを利用できるようになるというもので、今後ますます普及するであろうホームネットワークを考慮した機能だ。そのほか、インターネット関連では、インターネットエクスプローラ5やネットミーティング3といった最新バージョンのインターネットクライアントソフトが搭載される。

マルチメディアサポートの強化として、ウィンドウズマルチメディアテクノロジー4.0に対応し、より高画質で高音質なビデオが再生できるようになったウィンドウズメディアプレイヤーとPentiumIIIに対応したDirectX 6.1ランタイムを搭載する。

最新のハードウェア技術への対応では、IEEE1394規格のサポートの強化とUSBモデムのサポートが挙げられる。IEEE1394では、新たにSBP（Serial Bus Protocol）2に対応した周辺機器がサポートされる。これにより、IEEE1394ポートを備えたハードディスクや

CD-R、DVD-ROMなどの接続が可能となる。また、デジタルビデオカメラの接続もサポートされる。USBモデムのサポートに関しては、USB Communication Device Classバージョン1.1に対応したモデムが対象となる。これは、ウィンドウズ98とウィンドウズNTの両方のプラットフォームで利用できる共通化されたデバイスドライバ技術であるWDM（Win32 Driver Model）Classで標準サポートされる。

各種の不具合の修正については、2000年問題を修正した各種のパッチや米国などで話題となった「ユーザー登録ウィザード」でハードウェア情報が送信されてしまうバグのフィックスなどが行われている。このほか、日本語版のみの追加機能として、IME98 SR1.1が収録される。

なお、英語版のセカンドエディションに搭載される「WebTV for Windows」は、日本語版には搭載されない。

セカンドエディションの提供形態は4種類

ウィンドウズ98セカンドエディションの提供形態は、対象ユーザー別に4種類に分かれている。今回のバージョンアップは、ウィンドウズ95 OSR2のときのようなOEM供給のみといったことはなく、既存のウィンドウズ98ユーザーにもアップデートパックが提供される。

ウィンドウズ98ユーザーを対象としたものには「サービスパック1」と「セカンドエディションアップデートCD」の2種類がある。サービスパック1は、2000年問題などの修正モジ

ュールやインターネットエクスプローラ4.01 SP2の不具合修正など、各種の問題点を修正するパッケージで、新機能は含まれない。これは、ウィンドウズアップデートを利用して無償でマイクロソフト社のウェブサイトからダウンロードができるほか、雑誌の付録CD-ROMへの添付や有償のCD-ROMサービスなどで提供される予定となっている。「セカンドエディションアップデートCD」は、サービスパック1の内容にインターネット接続共有機能などの新機能やインターネットエクスプローラ5などを追加したもので、こちらは有償のCD-ROMサービスのみで提供される。つまり、現在ウィンドウズ98を利用しているユーザーがセカンドエディションで追加された新機能を利用するためには、セカンドエディションアップデートCDを申し込む必要がある。

ウィンドウズ95/3.1ユーザーには、「セカンドエディションアップグレード版パッケージ」が店頭などで販売される。この製品はウィンドウズ95/3.1ユーザーを対象としたものなので、ウィンドウズ98ユーザーが間違えてこの製品を購入しないようにパッケージなどに注意書きが記載される。また、新規ユーザーには、セカンドエディションをプレインストールしたマシンや「スタンダード版パッケージ」などが店頭で販売される。

なお、現在のところ、それぞれの製品の価格や出荷開始日については未定となっているが、夏から秋にかけて出荷されるのではないかとの見方が有力だ。

対象ユーザー	製品名	製品内容	提供形態
ウィンドウズ98ユーザー	サービスパック1	2000年問題などの不具合修正	ウィンドウズアップデートからのダウンロード CD-ROMサービス（有償） 雑誌CD-ROMへの添付
	セカンドエディションアップデートCD	サービスパック1の内容とインターネット接続共有などの新機能	CD-ROMサービス（有償）
ウィンドウズ95/3.1ユーザー	セカンドエディションアップグレードパッケージ	ウィンドウズ95/3.1からのバージョンアップ	店頭などで販売
新規ユーザー	セカンドエディションスタンダードパッケージプレインストールCD	ウィンドウズ98セカンドエディションフルバージョン	店頭などで販売

ウィンドウズ98セカンドエディションのおもな新機能と変更点

- ・インターネット接続共有
- ・インターネットエクスプローラ5
- ・ウィンドウズメディアプレイヤー
- ・Direct X 6.1
- ・IEEE1394サポートの強化
- ・USBモデムのサポート
- ・2000年問題などの不具合修正プログラム

インターネット接続共有で モデムがダイアルアップ ルーターに変身

ウィンドウズ98セカンドエディションの新機能の中で一番の目玉となるのが「インターネット接続共有」だ。最近では一般家庭にもPCが普及してきたので、家族で複数のPCを所有する家庭も多く、イーサネットではホームネットワークを構築しているといったことも珍しくなくなった。そのような場面でインターネット接続共有は威力を発揮する。

モデムやTAを利用した通常のダイアルアップ接続では、それらの機器が接続されているPCからしかインターネットを利用できなかったが、インターネット接続共有を利用すれば、ホームネットワークで接続された複数のPCから同時にインターネットを利用できるようになる(図2)。簡単に言えば、インターネット接続共有はダイアルアップルーターのような機能をするソフトウェアだ。

しかも、インターネット接続共有ではモデムやTAといったシリアルポートに接続する機器だけではなく、イーサネットでも接続するケーブルモデムやADSLモデムなどにも対応している。そのため、インターネット接続共有を実行するPCにイーサネットカードを2枚差し、片方のイーサネットのポートにケーブルモデムやADSLモデムを接続し、もう一方のイーサネットポートをホ

ームネットワークに接続すれば、1つのグローバルIPアドレスでホームネットワーク内の複数のPCからインターネットに接続できる(図3)。

これは最近増えてきているCATVを利用したインターネットサービスなどで有効な機能だ。通常、CATVインターネットサービスで割り当てられるIPアドレスは、1契約につき1つであることが多い。そのような場合にインターネット接続共有を利用すれば、ホームネットワーク内の複数のパソコンからインターネットが同時に利用できるようになる。

また、インターネット接続共有を利用してインターネットに接続できるのはウィンドウズ98をインストールしたPCだけではない。イーサネットを使ってTCP/IPで通信できる機器ならばマッキントッシュやUNIXなど、どのようなプラットフォームでもインターネットに接続できる。

なお、インターネット接続共有を利用してインターネットに同時接続できる台数は5台までに制限されている。

インターネット接続共有の 仕組み

インターネット接続共有では、NAT(Network Address Translation)、DHCP(Dynamic Host Configuration Protocol)サーバー、DNS(Domain Name System)プロキシの3つの機能を使って、1つの回線

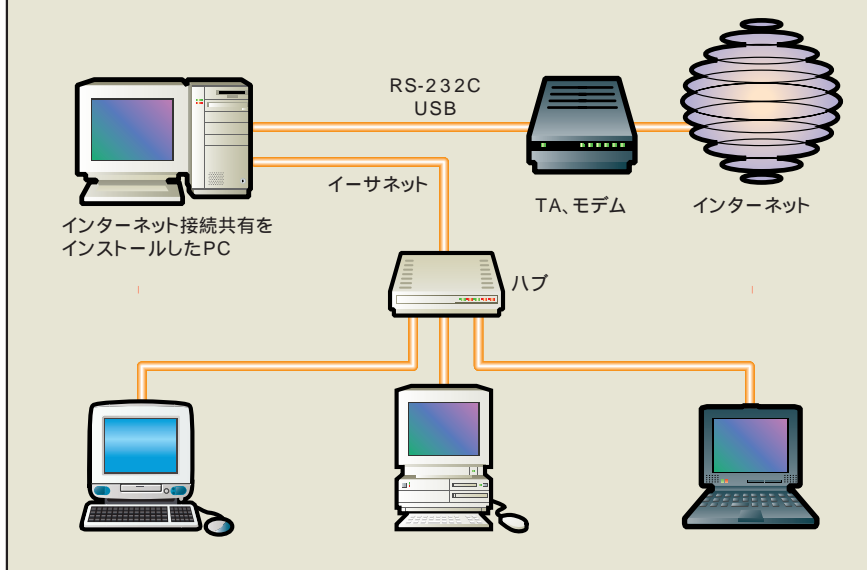
で複数のPCが同時にインターネットにアクセスできる仕組みを提供している。

それぞれの機能を簡単に解説すると、NATはホームネットワーク内で利用されるプライベートIPアドレスとインターネットで利用されるグローバルIPアドレスとを相互に変換するものだ。この機能により、プライベートIPアドレスを割り当てたPCからインターネットにアクセスできるようになる。通常のNAT機能では、プライベートIPアドレスとグローバルIPアドレスとの対応は1対1となっているため、1つのグローバルIPアドレスでは複数のPCが同時にインターネットを利用することはできない。インターネット接続共有では、このNAT機能を拡張して、1つのグローバルIPアドレスで複数のPCが同時にインターネットを利用できるようにしている。

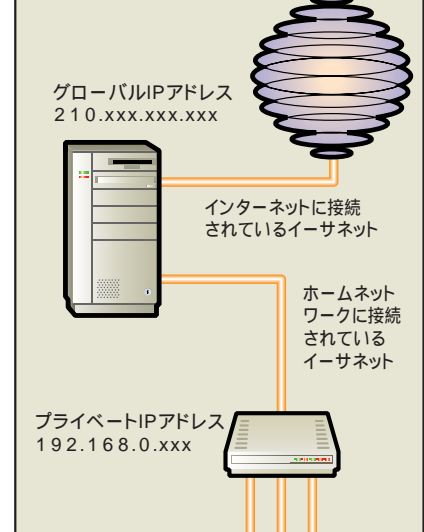
DHCPサーバーは、ホームネットワーク内のPCにプライベートIPアドレスやゲートウェイアドレス、ネームサーバーなどを自動的に割り当てる。この機能を利用することで、ホームネットワーク内のPCは面倒なネットワークの設定をせずに済む。また、DHCPを利用せずにIPアドレスを静的に設定することもできる。

DNSプロキシは、インターネット共有接続をインストールしたPCが、LANで接続された他のPCなどから出された名前解決の要求をインターネット上のDNSサーバーに転送する機能だ。

インターネット接続共有の概略図(図2)



プロキシサーバー
として利用する(図3)



インストールは非常に簡単

インターネット接続共有は、ウィンドウズ98セカンドエディションを「標準のインストール」でセットアップした場合には組み込まれないので、コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」から選択してインストールする必要がある(画面2)。すると、セットアップウィザードが起動するので(画面3)、あとは画面の指示に従っていけば簡単にインターネッ

ト接続共有がインストールできる。

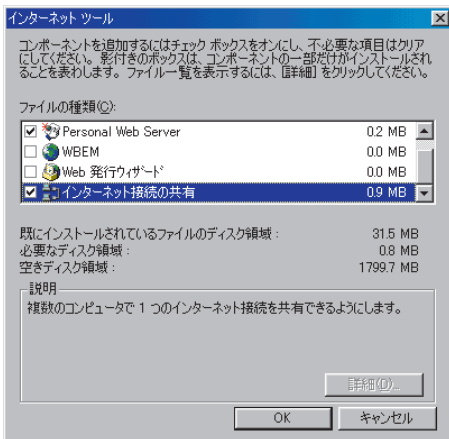
インストール後、コントロールパネル内にある「インターネット」のプロパティを開いて「接続」のタブを選択すると、「共有」というボタンが追加される。

インターネット接続共有の設定は、この「共有」ボタンをクリックして行う(画面4)。

設定画面は非常にシンプルで簡単だ(画面5)。「インターネットへの接続方法」の欄は、モデムやTAを利用している場合はダイヤルアップアダプターを選択し、ケーブルモデムや

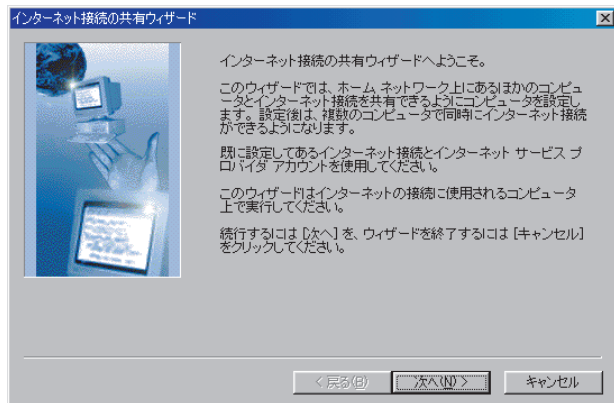
ADSLモデムなどを利用している場合は、ケーブルモデムやADSLモデムが接続されているネットワークカードを選択する。「ホームネットワークへの接続方法」は、ホームネットワークに接続されているネットワークカードを選択する。

以上で設定は終了だ。これだけで、ホームネットワーク内のどのPCからもインターネットに接続できる。



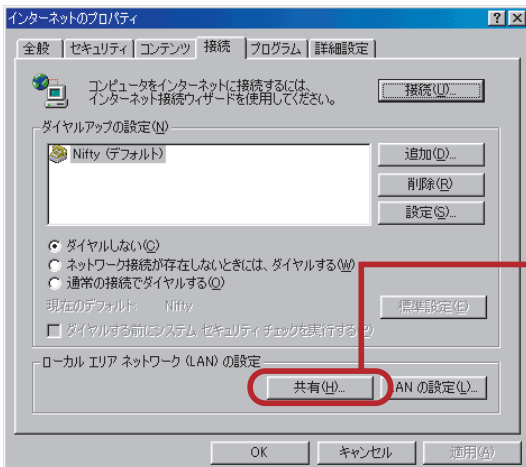
(画面2)

インターネット接続共有は追加インストールをする必要がある。コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」から、「インターネット接続の共有」のチェックボックスを選択してインストールしよう。



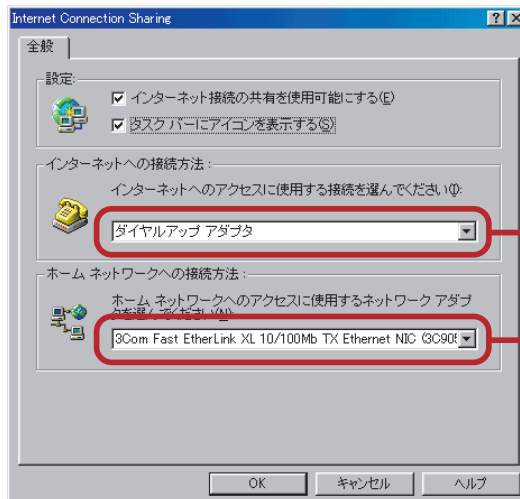
(画面3)

インストールがウィザード形式で行われるので、画面の指示に従って必要な項目を選択するだけでネットワークが設定される。



(画面4)

インターネット接続共有をインストールすると「インターネット」のプロパティに「共有」というボタンが現れる。このボタンをクリックすると、インターネット接続共有の設定ウィンドウが表示される。



(画面5)

インターネット接続共有の設定画面はシンプルだが、インターネットに利用している接続先と、ホームネットワークの接続先を選択するだけで自動的にネットワークの設定が変更される。

インターネットの接続にモデムやTAなどを利用している場合はダイヤルアップアダプターを選択する。ケーブルモデムやADSLモデムなどを利用している場合はそれが接続されているネットワークアダプターを選択する。

ホームネットワークに接続されているネットワークアダプターを選択する。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp